



YWCA フェスタ in 沖縄 アピール文

今年には敗戦から 70 年目を迎えます。70 年前、沖縄は本土防衛の捨て石とされ、島民の 4 人にひとりが犠牲になりました。戦争が終わると、沖縄は本土の「独立」と引き換えにアメリカに差し出され、米軍統治下で銃剣とブルドーザーによって土地を奪われました。ようやく日本に復帰したのは戦後 27 年がたってからでした。しかしながら、平和憲法の下に復帰したいという沖縄の願いはかなえられませんでした。米軍基地は沖縄に押し付けられたまま残り、いまだに国土の 0.6%にすぎない沖縄に国内の米軍専用基地の 74%が集中しています。

昨年 1 月の名護市長選に始まり、同市議選、県知事選、県議補欠選、那覇市長選、そして 12 月の衆議院選挙とすべての選挙において、沖縄の人々は「新基地建設ノー」の民意を示してきました。それにもかかわらず日本政府は、民主主義を無視し、新基地建設を強行しています。海上保安庁・警察・機動隊による市民への暴力・弾圧が続いています。

日本YWCA が 1 月 28 日内閣総理大臣と防衛大臣宛に出した「辺野古新基地建設埋め立て工事強行に対する抗議声明」に対しては、世界各国のYWCAから共鳴と支持の声が届いています。軍事基地は、女性や子どもたちの安全と安心を破壊します。そのことは、沖縄をはじめ世界各地の女性たちの証言からも明らかであり、歴史が証明しています。

オール沖縄の党派を超えた動き、決して屈せずあきらめない姿勢、非暴力に貫かれた運動等、今、私たちは改めて沖縄に学びます。それぞれの現場で沖縄につながっていきます。

私たちは、沖縄の過剰な負担が解消され、沖縄の人びとが自ら決めたことが実現されるよう、日米両政府に対して沖縄の声を聞くことを求めています。辺野古新基地建設・高江ヘリパッド建設に反対し、オスプレイ配備撤回・普天間基地閉鎖を求めます。そしてすべての基地がなくなる日まで、共に闘っていきます。

2015 年 2 月 16 日

YWCA フェスタ in 沖縄参加者